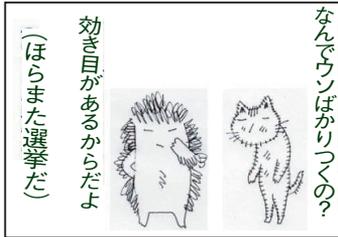


無理ンピック強行!

全国で感染拡大の危機に!



【主張するネコたちのこと】シェアもコピーも自由です



ネコたちも五輪開催に反対だ。猫もライオンも新型コロナウィルスに感染する例があつたねえ

赤木ファイルに見える役人の真摯な姿。それを無視し続ける役人・政治家の姿。政治家に期待出来ぬ国に悲しいかな住んでいる。選挙の年に期待しよう。(周)

皆んで選んだ
今月の秀句

赤木ファイル官吏の矜持きょうじ教示する
五輪さえやれたら後は知りません
政治家に頼れぬ国に住んでいる

自眞弓
岩佐ダン吉
小山広助

来月例会案内

7月例会
投稿締切
課題「木」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

7月22日(木)
19日(月)
3句以内
5句以内

川柳互選・課題吟「教」	2
自由吟	3
自句自解・ほのぼの川柳	5
新設「みちづれ抄」	5
おたより／問題提起	6
川柳連作	7
亀公子の《川柳ひと言》	7
投稿・小野寺茂	8
投稿・武田裕一	11
手紙・浜本大蔵	12
戦争前夜抄《29》	13
「墨子を読みなさい」③	13
編集後記を兼ねて	16

7月の例会は誌上です。

6月の
川柳互選

◆ 点の付け方

推薦句◎…2点、準推薦句○…1点
◎3句以内、○全体の半数以内。

◆ 課題吟「教」(互選)

一人 3句以内吐

(投句15人/16人の互選)

- 1 江田島は兵学校と教えられ 一角
- 2 教えてく川柳のコツ初心者に ひろみ
- 2 医師教え官邸与党軽視なり 宏
- 2 血筋かな劣る教養天然ボケ ひろみ
- 2 稚子^{ちこ}育てひたすら愛すに如くは無し 未知子
- 2 絆てふ文字のみ踊る国の中 ふさこ
- 2 現役時教えてた事今習う ひろみ
- 3 若い人教えてくれる技多い 一角
- 3 何教え何を学ぶか日本の子等 ふさこ
- 3 善悪の基準の教え師も知らず ふさこ
- 4 教科書は伏せて脱線教師力 立東爺
- 4 アベスガに教えられた民主主義 白眞弓

- 4 校則の子どもの人権捨ててやり 大峰
- 5 積尊の教え富国強兵とは真逆 徹乗
- 5 アクセルとブレーキぐらい教えてよ 尉
- 5 「親に孝」どこで子どもに教えよか ふさこ
- 5 教えたがりやつぱり口を出してくる ダン吉
- 5 団塊世代知るや黒塗り教科書 尉
- 5 恫喝は犯罪ですと教えたい 一角
- 5 軍都広島被服支廠に教えられ 白眞弓
- 5 幾多郎を称える教育未来なし 徹乗
- 6 神様の教えに背く殺し合い 亀公子
- 6 坊ちゃんのような先生いませんか ダン吉
- 7 授業には九条教科抜けている 広助
- 7 正義貫ぬく強き学んだ鶴彬 未知子
- 7 教科書の形に育った卒業生 立東爺
- 8 七つの我に愛を教えて逝った母 未知子
- 8 票田へ名前と顔を先ず教え 広助
- 8 天皇を現人神へ日本教 尊柳
- 9 政治屋に道徳を先ず教うべし 尉
- 9 専門家の教え封じる菅政治 徹乗

9 処刑後もオームの謎はまだ解けず 尊柳

9 教室で習っていないね現代史 立東爺

10 毎日が戦場校舎の隅に基地がある 大峰

10 疫病の怖さコロナに教えられ 北の山

10 反戦歌教える集い過去となる 広助

10 コロナにはどの宗教も歯が立たず 尊柳

10 九条を教えたくない菅の腹 大峰

11 聖職と名ばかり疲れはてている ダン吉

11 権力の片棒担ぐ教団旗 亀公子

12 洗脳へ指導要綱厚くなる 亀公子

13 赤木ファイル官吏の矜持教示する 白眞弓

◆自由吟 (互選)

一人5句以内吐

(投句15人/16人の互選)

クラストは乾癩者集団痒いかい? 未知子

1 国民の命と安全守ると大ボラを吹く 大峰

1 「スマート農業」畑を細くするのかな 未知子

2 後継者を取沙汰される菅首相 尊柳

2 国籍の制度なくせば宇宙人 白眞弓

2 住民はスパイが怖い土地の法 一角

2 別居してはや二ヶ月の閑古鳥 尉

2 「NEC脅せ」次国民が脅される 徹乗

2 コロナでは親の脛かじれない 大峰

2 一滴の水も捨てずと知事選ぶ 白眞弓

2 議員辞職金に塗れる永田町 尊柳

3 パペットは喋り出すのが遅かった 徹乗

3 今知った戦犯の骨靖国になく海の中と ふさこ

3 さい銭を何度も盗みに来る人世も未だ ふさこ

3 今日明日と何か落ちて来る米軍機 大峰

3 会えぬとも差し入れ通い親心 ひろみ

3 改憲へコロナはチャンス策を練る 立東爺

3 ズームなら選手来なくてできるかも 白眞弓

3 ワクチンやひねもすのたりのたりかな 徹乗

3 悪いことした後さっさと辞職でケロリ ふさこ

3 こりや持たぬ一発勝負の賭けに出る 北の山

3 パンデミック五輪病が発症し 大峰

3 わが国は五輪先行民守れぬ 宏

4 一万でコロナまん延誰のせい 一角

4 人に付く犬の選びし生の道 尉

4	ワクチンを打つたと今日は杖がない	ダン吉	6	アベマスクお蔵入りしたまま廃棄待つ	亀公子
4	IOC政府・都すらもコントロール	宏	7	鉄条網で断絶はかる基地の島	亀公子
4	バツハ氏はボツタクリ名手「王」気取り	宏	7	行政が憲法破って罪問わず	北の山
4	日本が専制政治へ向かつてる	徹乗	7	権力の意向で歴史を書き替える	尊柳
4	黒幕へと変異株になる前首相	尊柳	7	窓口の二割これこそ自助ですか	ダン吉
4	カタカナ語氾濫シニアの反乱出番です	未知子	7	別居してノラともなれず白髪妻	尉
4	予防接種ドクターに言うお大事に	ダン吉	7	最初から穴が空いてる泡ドーム	立東爺
4	中止も出来ず変異株を追い廻す	大峰	7	責任を知るが言えない裏事情	立東爺
4	雑草に等しく日照自然界	広助	8	五輪猛進政権維持のギャンブルだ	徹乗
4	ワクチンでガード固めるコロナ戦	尊柳	8	子ども庁役人がまた焼け太り	一角
4	辞めさせぬ退職願い受理後にて	ひろみ	8	改憲を焦る政治に不安抱く	広助
5	別居して妻生き生きとつばくらめ	尉	8	逃げ切れるつもりだった証言台	立東爺
5	ダム阻止が若者たちに受け継がれ	白眞弓	9	ワクチンもオリンピックも欲深い	一角
5	スピードと便利が優先今の社会	ふさこ	9	土地利法基地を守って民縛る	北の山
5	カカと笑いハツハと笑うおかあさん	白眞弓	9	負の遺産団塊世代狙い撃ち	尉
5	「いじめ保険」加入者急増大儲け	未知子	9	アベ夫妻「スガ」親子丼変異株	宏
6	渋面と腹立ち今日もあの総理	ダン吉	9	おもてなし復興五輪息絶える	亀公子
6	自粛続き友と遠のく孤独感	ひろみ	9	リモートについてゆけずに出社する	広助
6	信任をしたこと俺はないのだが	一角	10	原稿を棒読みにする危機管理	広助

10 香港を赤い轡くわが締め上げる 亀公子

11 コロナ禍で命のいとしさ再発見 未知子

11 爆発をしないと分からぬ危機管理 立東爺

11 看取り介護我が身の先に不安抱く ひろみ

11 オリパラに世界のコロナ競い合い 大峰

12 ワクチンと無縁な難民キャンプ村 亀公子

12 脱炭素裏で原発粛々と 宏

14 五輪さえやれたら後は知りません ダン吉

14 政治家に頼れぬ国に住んでいる 広助

◆白句自解 白眞弓（千葉・船橋市）

・軍都広島被服支廠に教えられ

広島のは、広島県人も被害の都市と認識している人が多いのですが、軍都であり、加害性についての認識がなかったと、高校生など若い

コーナー新設 『みちづれ抄』

北の山さんの父上・北山幸泉さんの句集から

人たちが、気づいたと言います。そのきっかけは、市内にある被服支廠保存運動ということです。多くの人が、小さな細胞のようなグループを作り、横につながるといってこれからの市民活動のモデルのような活動です。

ほのぼのの川柳

只今は辛抱辛抱頑張れよ

神田鯛

プールでは気持ち良くて最高だ

神田鯛

蝉鳴けば真夏が来るよ楽しみだ

神田鯛

さい銭の効き目感じたことがない

東爺

みちづれ抄

北山 幸泉

年金の計算分からぬまま貰う

花より団子と孫は店の先

怒る事覚えた孫の百力日

町内会旅行の動議すぐ決まり

こりゃあ甘い嫁の料理を褒めて食べ

おたより

◆おたより 岩佐ダン吉さんより（大阪）

集まれない、目を見て話せない、幹事会だつて一年ちかくもやれない中でのあかつき川柳会の創立20周年の各種企画。メインの200人、《合同句文集》は何とか半数を突破しました。

原稿の締切を7/10に延長、川柳教室の仲間から「もう私らの年なら最後の句集でしょう。参加します」のうれしい声も…。（一人15句、文400字まで）用紙は請求を！

◎白眞弓さんより問題提起

「ずうつと気になっているのですが、川柳の場合、基本「（）？！などは使わない約束になっていると聞きます。それでいいなと思つても、そういうのが入っている場合、取りません。今回結構あったので……。尾藤川柳さん、高鶴礼子さんの教えです。」

というご意見を白眞弓さんから頂戴しました。

これまで気にはしていましたが、みなさんのご意見をお願いしたいと思い、紹介しました。

一般的には、①「」？！（）など記号は使わない（方がいい）②空白をつくらない。③改行しない、……などが言われています。しかし、川柳のものは和歌で、声に出して読み上げたものですから、「などとは関係なくなりますね。紙に書くことになつてから、空白や？！など記号が次第に嫌われることになつたのではないのでしょうか？

個人誌などでは個人の自由な表現、形があつてもいいのですが、同人・仲間で作る会報などでは、一行にきつぱり決める五・七・五が見ても気持ちがいいですね。

いかがでしょうか？ みなさんのご意見をお願いします。
（編集子）

川柳連作「インパール五輪」

遠田 亀公子

インパール五輪のラッパ鳴りやまず

血税を穴埋めにして五輪玉砕

色褪せた五輪にすぎる石頭

五輪旗へ悪夢のコロナ燃え盛る

コロナの火聖火をよそに駆け巡る

屁理屈で夢の祭典捻じ曲げる

総スカン喰っても御旗振る蛮行

火ダルマの五輪の下に泣く弱者

犠牲者は二の次メンツ前になる

五輪後に待つ日の国の生き地獄

亀公子の《川柳ひと言》

「鶴彬川柳大賞」の選者をするようになってしみじみと感じたことがある。

「川柳大賞」の応募には昨年220余名の方々に参加された。鶴彬川柳に胸を熱くされている全国の柳人の句であるのが手に取るようにわかる一方で、残念ながら似たような作品ばかりとなってしまうている。これを抜け出すには一人一人が死にもの狂いで表現力を磨く必要があるのではなからうか。たった十七文字の中であつてもそこに自分が表現されていなければ、それは他の人と同じレベルの物にすぎないことになるのだと思う。

鶴彬は鶴彬の表現で句を吐いた。その表現力が私達の胸を打つのであつてそれ以上でも以下でもない。だったら今生きている私達も私達独自の表現力で句を絞り出す必要がある。もつともつと現実の深層に切り込んで句と対峙したいものである。

投稿

『プロレタリア文学運動の盲点』

『戦争前夜抄』

読後の感想

小野寺茂（足利市）

先ず初めに新たな歴史の発見と共に歴史の実証的・客観的検証の必要性を痛感しました。なぜなら皇国史観が神話的・私観的に歴史を改ざんし、日本を誤った道に導いた厳然たる事実があるからです。

皇国史観とは、「国家神道に基づき、日本歴史を万世一系の現人神である天皇が永遠に君臨する万邦無比の神国の歴史として描く歴史観。近世の国学などを基礎にして、十五年戦争期に、正統的歴史観として、支配的地位を占め、国民統合・動員に大きな役割を演じた。」と広辞苑にあります。その神なる天皇に弓を引いた（暗殺計画）というでつち上げが大逆事件です。

『戦争前夜抄』⑮⑯に取り上げられた『啄木の
大逆事件批判』には「啄木が膨大な大逆事件の
公判記録を読み込み、裁判全体は政府による
でつち上げだったと確信する。」とありますが、
石川啄木の洞察力と感性とに改めて感銘を受けま
した。

特に大逆事件を通して啄木が『はてしなき議論
の後』(1911.6.15)において、『ヴ・ナロード人
民の中へ』と叫び、社会主義に同調する若々しい
詩に感動しました。

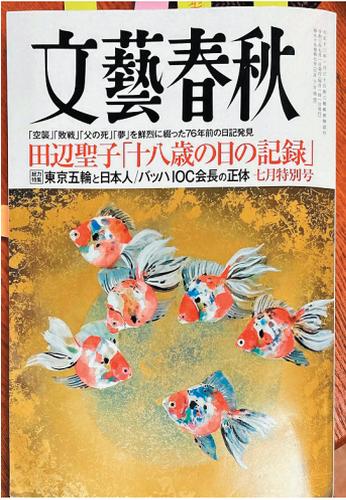
又、『プロレタリア文学運動の盲点』⑥の『百
人余の従軍作家たち』では、一九三七年十二月
十二日の「南京陥落を取材した石川達三の『生き
てゐる兵隊』の『南京大虐殺の掲載誌が即日発売
禁止になり、石川達三は禁固四ヶ月執行猶予三年
の判決を受けたこと。さらにこの記事が密かに中
国に持ち出され、英語版など各国版で出版され、
日本への国際的非難が高まるきっかけにもなり、

軍は対策を急ぐ。

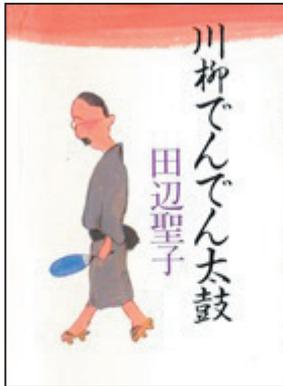
そして軍の対策として『日本文学報告会』が設立され、文壇を巻き込んで戦争に駆り立てることになり『百人余の従軍作家たち』が誕生するに至った。

そして一億人が皇国史観に洗脳され「ほしがりません勝つまでは」と本土決戦の目前まで勝つことを信じながら無条件降伏に至った歴史的事実を目の辺りにしました。

と読後感を書き進んだところへ、文藝春秋七月特別号の『田辺聖子十八歳の日の記録』が飛び



月刊「文藝春秋」7月号最近発見された田辺聖子の日記、1945年4月から12月の日記を掲載。



込んで来ました。なんとあの『鶴彬』を世に広めた田辺聖子がバリバリの軍国少女だったのです。映画『鶴彬こころの軌跡』の解説書の中の「記念講演『鶴彬と今』（木津川計Ⅱ上方芸能発行人）」に寄ると、「だいたい鶴彬が多くの人に知られる戦争作家になったのは、昭和六十年に講談社から『川柳でんでん太鼓』を田辺聖子さんがお出しになられ、「戦前にこれほど果敢に戦った川柳作家がいたのか」の紹介から大方の知るところとなったのですが、その時代のページ数は私の記憶では三十ページぐらい



『道頓堀の雨に別れて以来なり』(上・下 1998 中央公論社) 9

だったでしょうか。しかし『道頓堀の雨に別れて以来なり』上下2巻の分厚い大作の下巻の方では鶴彬につき八十ページが費やされています。

『川柳でんでん太鼓』以降さらに詳しく田辺さんが鶴彬研究を進められたのです。」と評価しています。

(終戦8月15日の日記を紹介)

田辺聖子『十八歳の日の記録』

《八月十五日　　嗚呼、

美しき伝統と国体は何処へ》

八月十五日

何事ぞ！

悲憤その極を知らず、痛恨の涙滂沱ぼうたとして流れ

肺腑はえぐるるばかりである。

(ママ)

我等一億同胞胸に銘記すべき八月十四日。

嗚呼、遂に帝国は無条件降伏を宣言したのである。今日正午、おわれおわ畏くも陛下におかせられては玉音

おん自ら、痛ましくも詔勅を読まれてその次にすぐポツダム会談を受諾した旨、発表された。すな

わち日本の無条件降伏。

嗚呼日本の男児何ぞその意気の情弱たる。

陛下におかされられては、広島に投下せる一原子爆弾とソ連の挑戦とにつき、この上民草を苦しめるに忍びずと仰せられているが、陛下よ、臣ら草莽そうぼうの微臣、いやしくも大和民族たるものは、一人として瓦となり全からんことを期するものあらざるなり、然り、日本民族の榮譽にかけて三千年の伝統をそのままに、玉と砕けんことをこいねがう。

(中略)

しかるに嗚呼、何等なすことなくいたずらに双手を上げて、何処に三千年の伝統と美しき国体は存するや。一億必死の時至らば差違えて死なんものをとまで思いつめ、全てを祖国へ捧げて来たものを。

我ら学徒もまた、美しき、また再び来ざる青春の時代を惜しげもなく祖国に捧げたてまつり

勉強にうちこむべき精力をすべて生産増強にふりむけて傍目もふらずひたすらに国想うおとめごころの赤き一すじの道をひたばしりにあゆみすすんで来たものを。男子の学徒もまた学窓を出でて筆を捨て、雄々しく空へ海へとあまかけり行った。何故？ ああ、全て祖国のかがやかしき勝利を確信して！
(後略)

このように目を疑うような田辺聖子の日記が、当時の一億人の一致した思いだったのではないかと今更のように言い様のない恐怖感さいなまに苛れます。歴史は繰り返すと申します。二度と同じ過ちを繰り返さない為にも、『戦争前夜抄』の歴史的価値とその貴重な役割とを痛感した次第です。

(了)

稿投 ・バイデン大統領・菅総理 ・大坂なおみ選手

武田裕一(津幡町・徳願寺)

北陸中日新聞「言わねばならないこと」で師岡カリーマさんが三人の会見について書いています。

・バイデン大統領(国民との対話集会)

選挙戦中は頼りなさそうに見えたものだが、なんのなんの、自分に投票しなかった有権者も含め、国民の質問に全力で答える姿は感動的ですからある。もちろん原稿はなく、質問者には個人として寄り添い、投げかけられるひとつひとつの問題についてしっかりした考えを持って、時には時間オーバーで「すみません、でも重要なので」と話し続ける。「国民に伝えたい、繋つながりたい」という気持ちあふが溢れ出るようだ。

・菅総理

翻って我らが日本。国会答弁も記者会見も「仕方ないからやっています」とでもいうような無表情や、内容が曖昧な「逃げ」の答弁に、国民としては不安が募るばかりで心細い。

(以上、「トランプ時代が懐かし」 2021/2/21)

・大坂なおみ選手

「人前で話すのは得意ではない」と言いつつ、持ち前の生真面目さからか、形式にではなく、素直に、誠実に話しているように感じられた。だからこそ、精神的な重荷は余計に大きかったのかもしれない。

〔テニスの記者会見〕 2021/6/6

菅総理についてもっと深く知りたい人は、『菅政権 東大話法とやってくる感政治』（宇佐美典也著・星海社新書）が参考になります。

会見や国会で問われる質問は「東大話法」で受け流し、なんとなく国民に「やってる感」を見せつける政治である。（74頁）

手紙

いまさらながら迂闊だった
『墨子よみがえる』を読みたい

浜本 大蔵（神奈川・伊勢原市）

（略）金石の隣・大野の青春時代の紹介など）

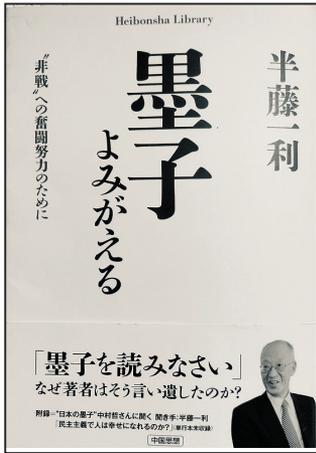
それから墨子の平和論、たまたま六月一三日に『9条地球憲章の会』のシンポジウムがあり、Zoomで参加しました。シンポジストの一人である大智新（日本近現代史研究者、日中関係史研究者）さんの報告で

墨子の平和思想が取り上げられていました。

諸子百家の最古の平和思想と言われる老子は「兵は不祥の器」であって、世は「つねにこれを忌む」と言っていて、その一世紀余の後、世界思想史上初めて理論的、体系的枠組みをもった平和思想として位置づけられているのが墨子の「非攻論」だと言います。墨子は『兼く愛する』（兼愛論）を強調していて、「戦争は略奪・盗賊的行為であり、人々に何の利益も幸福ももたらさない」として他国への侵攻を否定したと言います。しかし防衛のための戦いはやむを得ないとしたようです。

シンポを主催する「9条地球憲章の会」は「地球時代の視点から9条理念の発展」をめざして、「非戦・非武装・非核・非暴力・平和に生きる権利」を地球的な規模で実現することを願っています。その目的からは、今様に言えば自衛のための戦争を肯定する墨子の思想をどう位置づけるのか深める必要があると思いました。

日本国憲法9条は、自衛のための戦争を認めているのかどうか、九条の会はその是非・賛否の違いを超えて九条改憲に反対する一点で共同しているのですが、その上で、未来に向けて「非戦・非武装・非暴力」をどう発展



半藤さんが現代の墨子とよぶ中村哲さんとの対談が追加されている。(2021/5/10)

させていくのか、これからの課題だと思いました。「九条の会・いせはら」では、別添のような試論を提起しています。

墨子の平和論は、私がかつては平和教育で指導を受けてきた森田俊男(旧日教組の国民教育研究所長、国際・平和研究会会長)さんも取り上げていました。但しその当時は、私は余り関心がなくて、すっかり忘れていました。

「会報」の『戦争前夜抄』で半藤一利さんの「日本人への最新のメッセージ」を読んで、今さらながら迂闊だったなあ、と反省しています。早速、『墨子よみがえる』を読みたいと思います。

ニュースと私の私信である『我存霧中』を同封しま

した。 二〇二二年六月一日



周立東爺

半藤一利さんの遺言

「墨子を読みなさい」 ③

半藤一利さんが亡くなってから半年が経った。サンデー毎日誌が夫人の手記を掲載(2月28日)。「半藤一利日本人への遺言」として特集した。半藤さんは我々に残したメッセージは「墨子をよみなさい」であった。これは末利子夫人を通して知ることができた。

墨子って? なぜ墨子なのか? 中国四千年の歴史の中、孟子、老子、荘子、孔子……たくさん思想家が登場した中で、なぜ墨子なのか?

半藤一利さんに尻を叩かれて『墨子よみがえる』を読み始めたが、意外に難解だった。

まず著者の墨子に対する熱い思いはビンビンと伝わってくるのだが、墨子の主張が文字面から伝わって来ない。



なんせ二五〇〇年前の墨子の主張、半藤さんが漢文の読み下し文を「我流の繙案」で解説してくれるのだが付きあうのが大変。半藤さんは初心者に気をつかってくれたのであるう、一般書のように歴史背景↓人物↓経歴↓資料解説↓評価、のような構成ではなく、途中途中で架空編集者との会話などを入れたり、墨子の言葉を軟らかく解説して導いてくれるのだ。しかし、これも慣れないと

思考が分散して混乱してしまう。

とりあえず自分のためのメモづくりに、まず墨子の重要なテーマであるキーワード二つを並べてみた。

「サンデー毎日」
紙面
2021/2/28

「兼愛」^{けんあい}と「非攻」^{ひこう}

キーワード①「兼愛」^{けんあい} 漢和辞書にも熟語として載っていないが、意味は「あまねく人を愛せよ」ということのようなのである。キリストの博愛にも通じる人類愛であり、人を殺すなどということである。

キーワード②「非攻」 戦乱が続くなか、侵略戦争に反対した。非戦論を主張して行動。知力、科学力、人材を登用し「墨家」なる集団を作り、小国を助けた。

半藤さんは様々な角度から、墨子を解説する。墨子の生きた時代は、春秋時代末期から戦国時代初期。

『墨子よみがえる』には半藤さんの戦争に対する厳しい批判がある。本書の後半第八話に「侵略主義許すまじ」と題をつけ、書いている。この引用からはじめたい。

さて、『墨子』「非攻」編の(中)ではかなりはげしく侵略主義を論難する言葉が連ねられている。墨子はいう、古今東西、戦争は絶えない。為政者は、戦争が悪劣であり、民草には悲惨をもたらすだけであることを

十分に知っているはずなのに…。

と書いてくると、戦後日本で新憲法が施行され、戦争を永遠に放棄すると宣言した第九条に武者震いの出るほど、わたくしが感動したときのことか思いだされる。新しい平和日本をつくろうと理想に燃えていたし、東京の焼け跡でみた数かぎりない無残な焼死者の死を無意味にしないためにも、戦争放棄とはこよなく有意義なことと、若き日のわたくしは心から信じられたからである。(略)

……

と半藤さんは書き、歴史はリアリズムで理想論ではない、という反論に対して、「我流の繙案」で墨子を語る。

「されど、世の戦争狂たちは戦争をやりたがる。そしてこの連中は主張する、戦勝の名誉と、戦勝によって得られる利益とがほしいために、戦争をするのだ、と」
たいして墨子は反論するのである。

「戦勝がもたらすものに有益なもの一つもない。戦勝によって得た利益を計算してみると、その損失の大なることには及ばないことがわかるのである。いま三里四方の城、七里四方の城下町をもつ国を攻めるとしよう。精兵をくり出すこともなく、そっくりまるごと手に入るな

らそりや結構なことに違いない。しかしながら現実、味方の兵を殺すことが多い場合は万を数え、少ない場合でも千を数える。こんな損害をだして、三里の城と七里の城下町がやっと占領できるというもの。それが何になるというのか」

こう墨子が言っていることは、日中戦争における日本軍にそのままあてはまる。あの時代、われらが皇軍は何が真の戦争目的か不明のまま、ひたすら広い中国大陸をかなりの死傷者をだしつつ突き進んだ。陥落、陥落また陥落、戦争はお祭りではないが、そのたびに日本内地では旗行列と提灯行列で万歳万歳である。「兵隊さんは命がけ、私たちは襷がけ」という標語は、当時の国民感情をいい得て妙であった。

しかし蒋介石の臨時首都の漢口陥落が、日本の「陥落主義」の終点であったのである。拡大もここまで。日本人は勝ったつもりになっていたが、陥落主義には、都市陥落のあとの中国民衆の抵抗が視野に入っていなかったのである。占領地域の後方に、いぜんとして抗日政権があり、抗日ゲリラ戦があり、毛沢東の「持久戦論」があった。

(つづく)

編集後記を兼ねて

▼この号は投稿が多く、紙面が窮屈になりました。ありがたいこと。▼白眞弓さんから、「「」?!空白」の件で意見がありました(6頁)。ご意見お願い。▼「みちづれ抄」なるコーナーを新設しました。以前紹介しました北の山さんの父上がまとめた



お願い
岡田一杜さんの情報を
求めています。

7月例会のご案内 (毎月第4木曜日)

- ◆例会 7月22日(木) ◆投稿×切:19日(月)
- ◆課題 「木」 3句以内 ◆自由吟:5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。
- ◆**コロナ急速拡大で例会は誌上となります。**

- 投稿 FAX(076) 254-0762
- メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

「和川柳社」会報
会員募集しています!

同人:4000円/年
投句/購読:2000円/年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

「つれづれ」から抜粋して紹介していきます。
▼半藤一利さん最期のメッセージが「墨子を読みなさい」でした。「半藤さんへの旅」が続きそうです▼先日、卯辰山玉兎ヶ丘・鶴彬の句碑の清掃に行ってきました。専門家に意見をいただきました。近く本格整備を計画しています。▼コロナ禍五輪が終わった後に感染拡大・第五波が予想されています。例会も開けず意見交換などが難しいですが、質問や意見などよろしく願います。会報で交換しましょう。(周)

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30(3-2) (渡辺 寛)

電話 FAX:076-254-0762 PC-mail:kananabe@popolo.org

携帯:090-9445-1302 携帯 mail:kan-wata@i.softbank.jp

振込先:北國銀行中央市場支店 #191 普通 640「和川柳社」